

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	ピース		公表日		令和8年 3月 16日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		利用人数と活動内容を考慮して、衝突事故やスタッフの目が切れないように、スタッフの配置や活動時間を工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		利用児の人数に応じて十分なスタッフを配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		利用児が視覚的に流れや活動が分かりやすいTEACCHや顔写真の使用、安全が確保できていて過ごしやすい設備作りをしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		随時清掃や消毒処理を行い清潔を保っている。利用児の視線を意識した空間作りをしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	3	集中して作業活動等を行いたい時やクールダウンしたい時には仕切りのある机を使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		全体活動、児童一人ひとりの個別活動それぞれにおいて、スタッフ全員で目標設定や振り返り、検討を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		保護者向け評価表やアセスメント、日頃の保護者とのコミュニケーションからご意見やご相談を承り、業務改善等に繋げている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	スタッフ間のコミュニケーションや意見の交換が活発であり、その中で出た意見を業務に活かしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3	外部評価を行う機会は少ないが、保護者や相談支援事業所等の意見を積極的に取り入れている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		強度行動障害研修、児発管研修、虐待防止研修、発達センター主催研修会、事業所内障害特性周知研修等、積極的にスタッフには参加の機会を設けている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		活動内容や支援内容をHP上にて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		定期的なモニタリング評価や保護者へのアセスメントにて、利用児や保護者のニーズや新たな課題等を支援計画に反映している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		支援会議や日頃のスタッフ間のコミュニケーションで共通理解や情報共有を随時行ない、支援や対応を検討できている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		スタッフ間で共有できるファイルにまとめてあり、いつでも確認できるようになっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		一般的な障害特性による行動や注意点等は児発管を中心に共通理解を図り、その上で利用児個々の行動特性等を支援会議等で確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		支援計画には5領域も含めた左記の支援内容を踏まえて適切に支援内容を決定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		スタッフ全体で相談・検討の上、決定している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		月によって活動の内容を変えたり、季節の活動や外出活動、クッキング等を入れることで、活動内容が固定化しないように設定している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		全体活動のほかに、一人ひとり専用の個別活動を設定しており、随時検討しながら支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	3	正職員は朝の打ち合わせで利用児や送迎、支援の内容や注意点等を確認し、支援の中で気付いた点や注意点等は随時共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	3	正職員は朝の打ち合わせで利用児や送迎、支援の内容や注意点等を確認し、支援の中で気付いた点や注意点等は随時共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		日々の支援の中での気付きや情報等はすぐに共有し、記録ノートにまとめている。支援会議等で情報共有して支援の改善や検討につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		支援計画においては定期的にモニタリングを行い、保護者へのアセスメント、スタッフ間で検討して作成している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		スタッフ間で利用児の支援について検討し、管理者、児発管を中心に参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		協力医療機関、地域の歯科医院、相談支援専門員、学校の先生等と連携を図っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		事業所での支援内容や利用児の特性等、状況や要請に応じて情報の提供に努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		保護者からの要請や状況に応じて、支援に関する情報共有を適宜行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8		子ども発達センター主管の研修会等に積極的に参加している。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8		近隣の公園や外出先の施設等で交流の場を設けている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		送迎時やHUG・LINEでの連絡で利用児の様子をお伝えし、場合によっては体調不良時や緊急時は随時連絡している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8		保護者からの相談等を受けて、スタッフ一丸となって家族対応をしている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		利用契約時や受給者証の切替時等に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		アセスメント等で利用児や保護者の思いや意向を聞き取り、スタッフ間で検討をした上で支援やサービスに取り入れている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		アセスメント時に支援の方向性についての確認を行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		保護者からの相談内容によって専門知識のあるスタッフや利用児と同年代の子どもがいるスタッフを中心に相談に応じ、必要な助言や支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		8		夏祭りイベント等では保護者同士の交流や情報交換の場を設けている。父母の会等を設けていないため、保護者同士や兄弟で交流が持てるイベント等を検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		利用児や保護者からのご意見等については、管理者を中心に迅速にスタッフ全体に周知し、対応・対策している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		HPやSNSでの活動概要や支援概要の公表、保護者向けに活動・行事予定、事業所での様子等をお便りや写真で発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		社外持ち出し厳禁はもちろんのこと、個人情報関係書類については施錠のできるキャビネットでの保管を徹底している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		絵カードやボードを利用して視覚的に意思の疎通が図れる配慮をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8		プライバシー保護の観点から不特定の地域の方々を招く行事等は開催していないが、地域貢献のために公園や近所の奉仕作業は継続していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		毎月の避難訓練や防災訓練を実施し、事業所内に掲示、SNSや紙面での保護者への周知をしている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		管理者を中心にBCPを策定し、毎月非常災害等の避難訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		利用契約時等にてんかん発作等の利用児の状況を確認し、服薬等がある場合は処方薬管理依頼書を添えて保護者に提出していただいている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		アレルギー症状がある場合は、禁食・除去食等を保護者から聞き取りを行い、スタッフに周知するとともに、誤食等がないように注意している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		発作対応や救急救命訓練、その他安全対策についてはスタッフ研修を行い、支援をしている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	3	療育室内や送迎中に関しての安全管理については、契約等面談時に保護者へ周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		ヒヤリハット等は報告書にまとめ、スタッフ会議等で再発防止や対策について検討している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		虐待防止研修への参加、事業所内研修の開催等、スタッフの研修機会を確保し、虐待防止に努めている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		利用契約時に身体拘束についての説明を十分に言い、書面にて同意を得ている		